

廃棄物処理のスペシャリストをマレーシア・クアラルンプール市へ派遣！ ～自治体職員の高度な知識や経験を活用した取組～

シンガポール事務所

クアラルンプール市は、人口約160万を誇るマレーシアの首都であり、東南アジアの中でも経済発展が著しい地域のひとつです。しかし近年は、経済発展に比例するように市内のごみが増え、処理の適正化が課題になっています。

当事務所が実施する専門家派遣事業において、12月3日（水）から11日（木）まで、大分県別府市の職員が廃棄物処理の専門家としてクアラルンプール市へ派遣されました。

<クアラルンプール市の取り組み>

マレーシアは全土で2015年9月よりゴミを分別して収集することを発表しました。このためクアラルンプール市では3R（減量、再利用、リサイクル）の取り組みに注目が集まっており市都市計画局の中にLA21（ローカルアジェンダ21）という協議会を設け、市民参加型の組織として3Rの啓発活動を実施しています。

まず専門家は協議会メンバーでもある廃棄物収集会社やホテル、市民参加のリサイクルの取り組みを視察し、現状の確認を行いました。

① 廃棄物収集会社への訪問

クアラルンプール市の一般廃棄物は、AlamFlora という民間会社が委託を受けて収集を行っています。今回は、AlamFlora 本社に伺い、事業説明を受けました。クアラルンプール市では、ゴミは分別されず各家庭から排出されます。そして、そのゴミは、AlamFlora がすべて回収しています。日本でも多く取り入れられているGPS機能を用いたゴミ収集車の位置確認と、収集漏れのチェックが行われており、近代的なシステムの下で事業が行われている印象でしたが、クアラルンプール市から排出されるゴミの総量について専門家から質問をしたところ、把握していないという回答がありました。3R運動を行う上で必要になる根拠数字が欠落しているという問題が浮き彫りになりました。



ゴミ収集状況のプレゼン

② ホテルでのリサイクルの取り組み

視察したシャングリラホテルでは、排出される食品残渣をコンポスト（肥料化）する取組が行われていました。その肥料は、施設内の花壇などの肥料に利用しているとのことでした。専門家からは、ホテルで提供される食材についてもこの肥料を利用して栽培できれば、循環型社会のモデルになる取組になるとのアドバイスがありました。

③ バナー広告を再利用したエコバッグ作成の取り組み

市民参加型のリサイクルの取り組みとして、コミュニティが行っているバナー広告を再利用したバッグ制作の取組を視察しました。ここでは、市で使用されたバナーをもらい受け、地域住民がバッグやエプロンなどを作成しており、作成するために必要なミシンなどは、市からコミュニティに貸与されています。また、バッグなどのリサイクル品の売り上げは、9割が製作者、残りはコミュニティに支払われています。専門家からは、これは非常に有意義な取組



エコバックを確認する専門家

みであるため、普及させるために他地域での事業説明などが積極的に実施されるよう、行政によるサポートの仕組みを構築すべきであるというアドバイスがありました。

専門家による講義

専門家は視察結果を踏まえて、市職員やLA21メンバーを対象に講義を行いました。

① 別府市のごみ処理概要と市民参加型のごみ減量の取組について

最初に、日本におけるごみ処理の概要について、専門家が説明を行いました。日本では、ごみ処理は市町村に処理責任があり、その処理方法はある程度市町村に委ねられています。

続いて、別府市をモデルにしたごみの収集体系、分別品目などの説明を行いました。専門家が持参したごみ収集カレンダーの説明を行った際には、多言語化（英語、中国語、韓国語）や絵を使った解説など、非常にわかりやすい内容であったため、特に関心が集まっていました。

また、マレーシアでは、土地の所有者がごみ処理に関する税金を支払っていますが、ごみの排出が少なくても多くの土地を持っている場合、多額の税金を納める必要があることの問題点を指摘し、日本で多くの市町村が取り入れている指定ごみ袋制度について説明を行いました。参加者からは非常に合理的なごみ収集料の徴収方法であるとの声が寄せられました。

さらに、別府市で取り組んでいるごみ減量の取組について説明を行いました。リユ

ース品の情報交換掲示板制度や地域が行うゴミ減量を推進する事業への補助金制度等、ゴミ処理という市民メリットが見えづらいものに対し、どのようにインセンティブを与えているかについて説明を行いました。

② リサイクルの取り組みについての講義とグループワーク

最初に、日本で行われているリサイクルの取り組みについて、専門家から説明がありました。日本のリサイクルの法体系やコンポスト等の取り組み状況の説明後、市民や企業にどのようにインセンティブを与え、協力体系を構築するのかの説明をおこないました。

その後、参加者をグループに分け、ゴミ減量及びリサイクルをクアラルンプール市で実施する方法について、討論してもらいました。参加者同士積極的な意見交換が行われ、専門家からも、このような話し合いの場を多く持ち、意見を共有していくことは非常に大事なことであるとのアドバイスがありました。



グループワークの様子

おわりに

最終日の総括の場で、意識改革と 3R の促進を目指すため、パイロット地区の設置を行い、その地域において、市が理想とするゴミ分別や減量の取り組みを行ってはどうかという専門家からの提言がありました。①分別の種類と品目決定（可燃物・不燃物・資源物）②収集日・排出と収集方法・リサイクルと処分方法の決定③パイロット地区への住民説明（意義と意味）④データの精査⑤修正と今後の展開といった取り組みを実施し、最終的には全市的な取り組みに拡大していくというステップが提言されました。この提言に対して、クアラルンプール市からは即効性のある取り組みに関する質問がありましたが、専門家からは、廃棄物の問題に即効性のある対策は無く、一步一步着実に計画を実行する事が重要であると回答がありました。参加者は、廃棄物処理の難しさを再認識し、日本での取り組みを良く理解したようでした。

今後もクレアでは、日本の自治体職員が持つ知識と経験を海外自治体に伝えることによって交流・協力関係を深めていきたいと思えます。

【自治体国際協力専門家派遣事業に関するお問い合わせ先】

一般財団法人自治体国際化協会 交流支援部 経済交流課 電話：03-5213-1726

(下村所長補佐 愛知県田原市派遣)